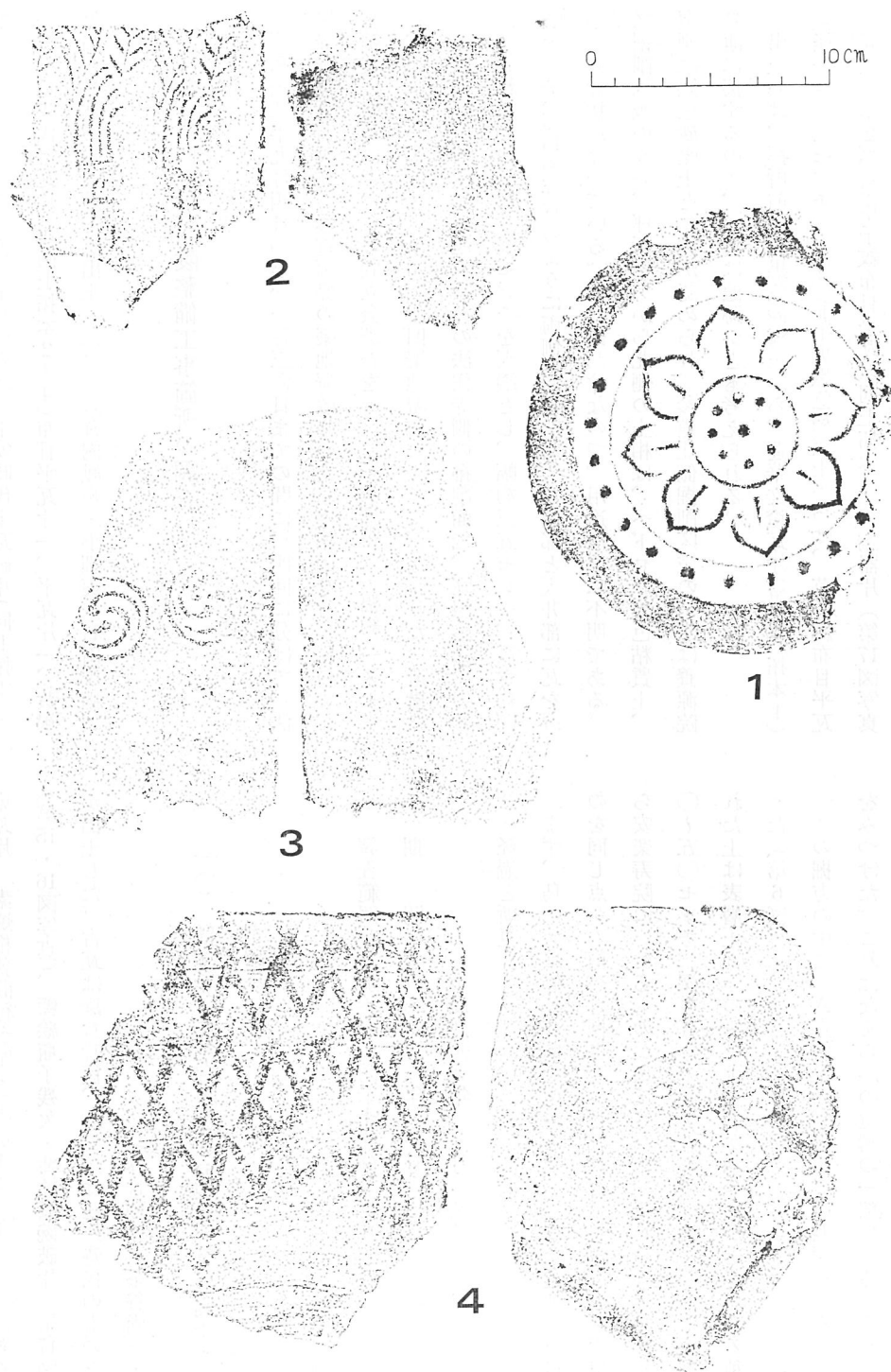




第5図 後白河天皇陵域内出土瓦拓本（縮尺3分の1）

地下約二メートルの褐色粘土層からは、平安時代宇瓦破片(同上拓本1)一、室町時代宇瓦片三(同上拓本2~4)布目平瓦片一、平瓦片一、黄褐色高台付鉢形陶器片一が出土した。(倉内鳳州・小畑実・石田茂輔)

九 後白河天皇陵整備工事箇所の調査

昭和四八年九月四日から一月三〇日までの間に、四回に分けて、法住寺陵拝所前及び、参道両側の築地塀改修の為基礎掘削を行ったので、月輪監区職員によりこの間立会調査を行った。掘削は、幅約一メートル、深さ約一・五メートルで、旧築地塀跡に沿って行なわれた。遺構としては、拝所前南側の西隅近くの法住寺側の掘削面で、瓦組を検出した。これは、地下約六五センチを天端とし、幅約三五センチ、高さ約四〇センチ、第14図写真のように両側に各瓦を立て、底部と天井部に瓦を置き、樋管状になっている。開口部だけなので、用途性格は不明である。又掘削区域のうち、拝所中央から北側の土相は、ヘドロ状黒色粘質土、南側は黒色砂礫土と差異が認められ、参道北側掘削区域の一部は養源院の池に接するので、北側は池跡かとも考えられる。

出土品は、拝所前中央黒色砂礫土から、蓮華文鏡瓦片(第5図拓本1)(径一八・八センチ)、拝所前中央黒色粘質土からは、草花紋布目平瓦(同上拓本2)、斜格子紋布目平瓦(同上拓本4)、陶器片(第17図写真3)、参道南側の黒色粘質土からは、巴紋布目平瓦片(第5図拓本3)、

鬼瓦片、素焼格狭間付台座・「吉水住蓮玉作」と銘のある陶製高坏残欠(第15・16図写真)、藍絵瓶子残欠・藍絵茶碗破片(第17図写真1・2)が出土した。古瓦は鎌倉時代、陶器類は江戸時代のものと考えられる。

(春日仲敦・茶谷尚三・石田茂輔)



第14図 後白河天皇陵域内遺構出土状況



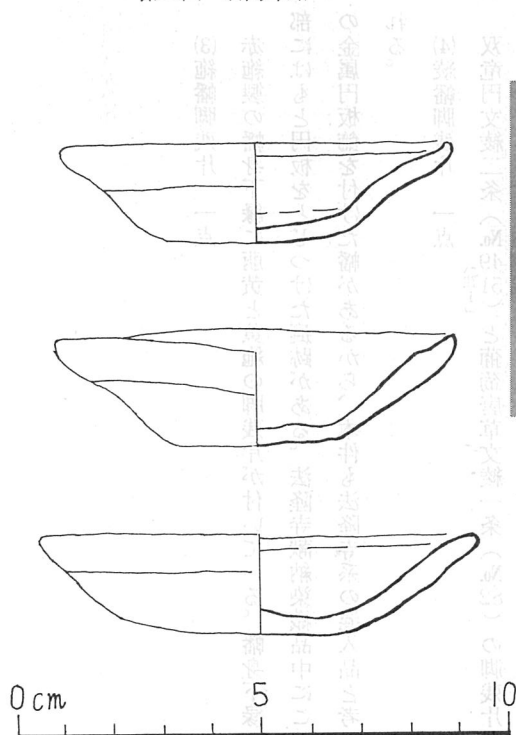
第13図 仁徳天皇陵第1 堤埴輪出土状況



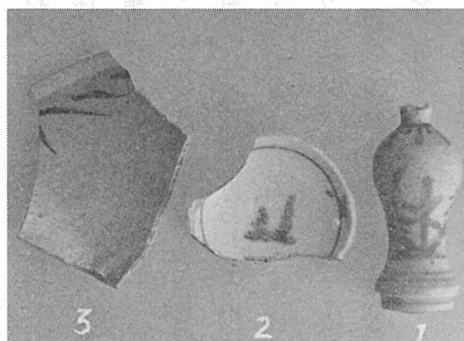
第16図 右高坏銘



第15図 後白河天皇陵域内出土高坏・台座



第18図 大原陵域内出土土器実測図



第17図 後白河天皇陵域内出土陶器



第19図 近衛天皇陵域内出土土器実測図